

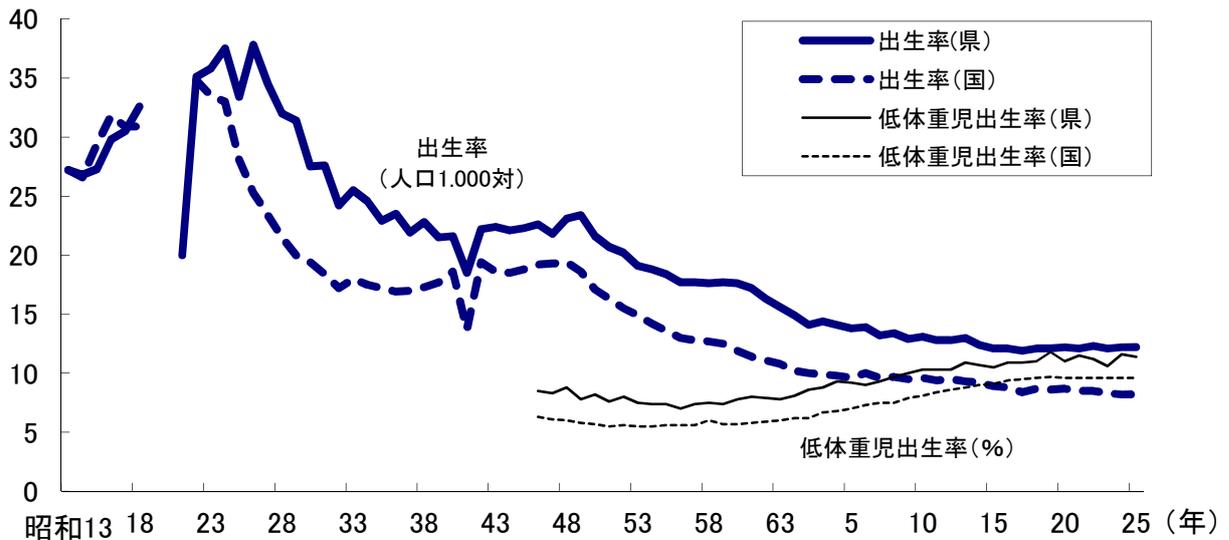
2. 母子保健の主な統計

(1) 出生率（人口千対）・低体重児出生率の年次推移

全国的にみると、出生率については年々減少傾向となっていますが、低体重児出生率は年々増加傾向となっています。

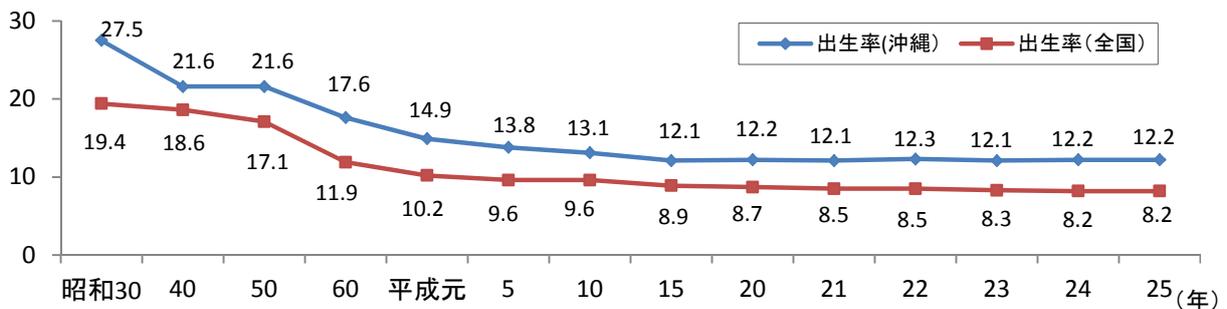
沖縄県でも同様の傾向があります。平成25年の出生率は12.2%と長年全国1位を誇っておりますが、一方で低体重児出生率も全国よりも高く、平成25年では11.4%となっています。

図9 昭和13年～平成25年までの出生率及び低体重児出生率の推移



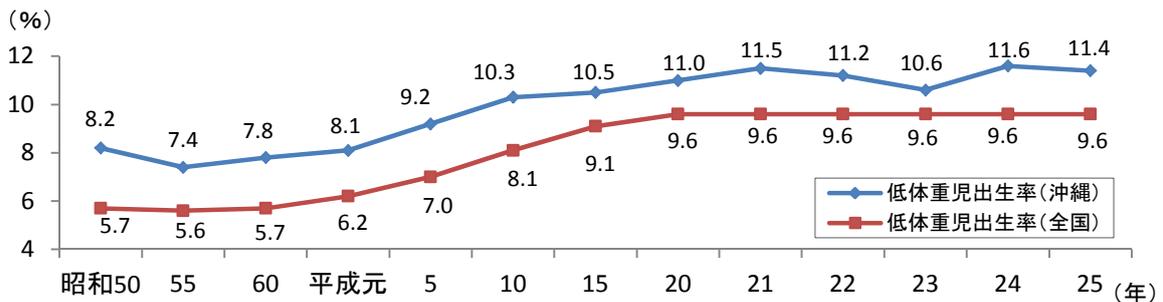
出典：人口動態統計

図10 出生率の推移（人口千対）



出典：人口動態統計

図11 低体重児出生率の推移

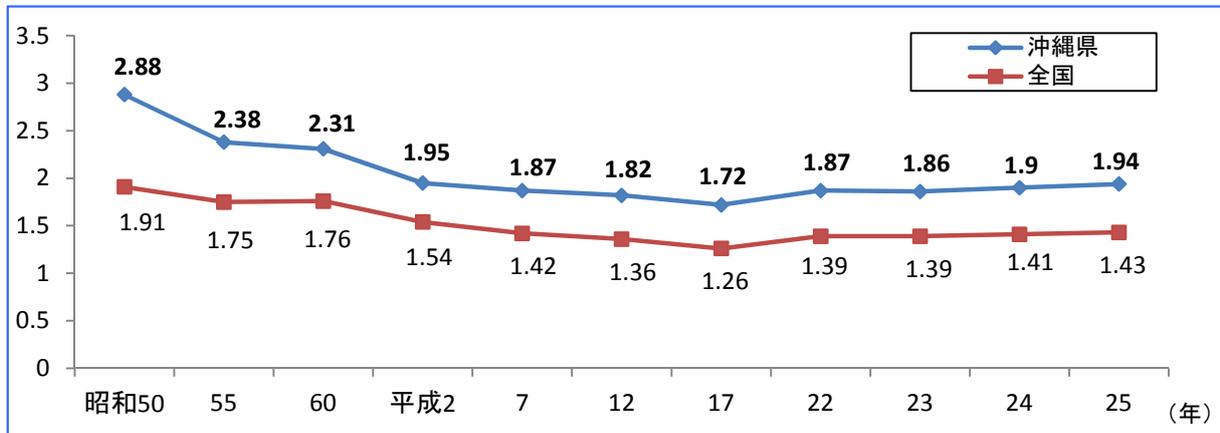


出典：人口動態統計

(2) 合計特殊出生率の年次推移

合計特殊出生率においても、出生率と同様に沖縄県、全国ともに減少傾向にあります。平成25年においては、沖縄県は1.94、全国平均は1.43となっています。

図12 合計特殊出生率の年次推移

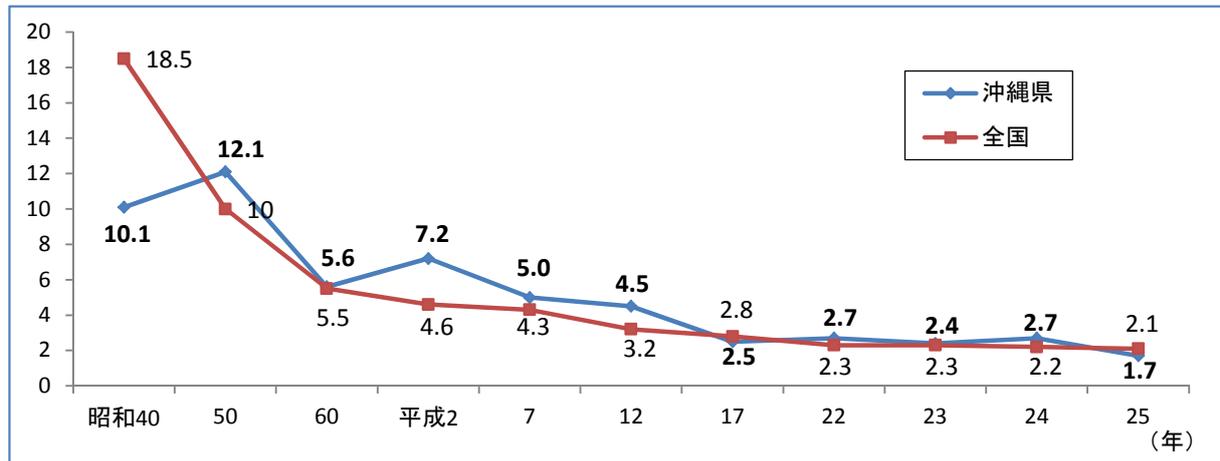


出典：人口動態統計

(3) 乳児死亡率の年次推移（出生千対）

乳児死亡率は、沖縄県、全国ともに年々改善傾向にあり、平成25年においては、沖縄県で1.7、全国では2.1となっています。

図13 乳児死亡率の年次推移（出生千対）

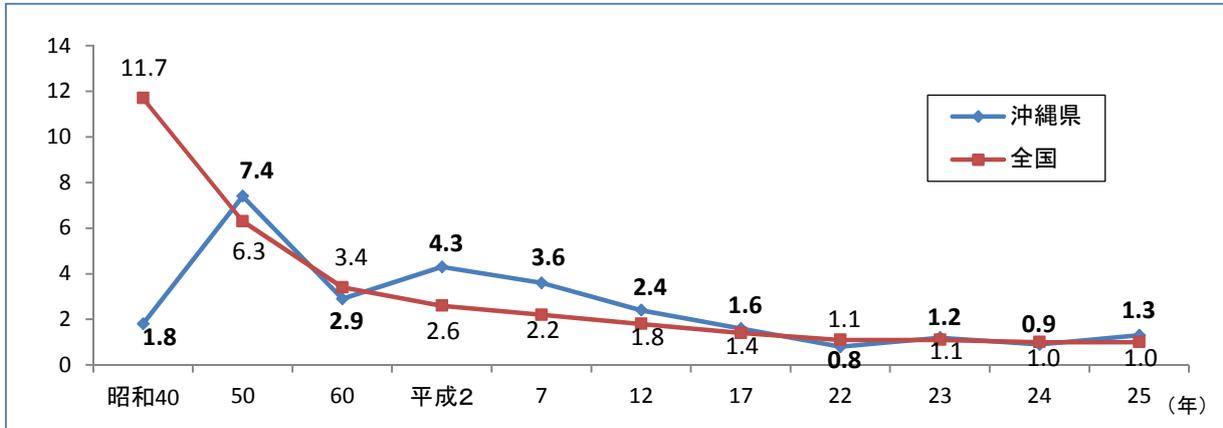


出典：人口動態統計

(4) 新生児死亡率の年次推移（出生千対）

新生児死亡率については、沖縄県、全国ともに年々改善傾向にあり、平成25年においては、沖縄県で1.3、全国で1.0となっています。

図14 新生児死亡率の年次推移（出生千対）

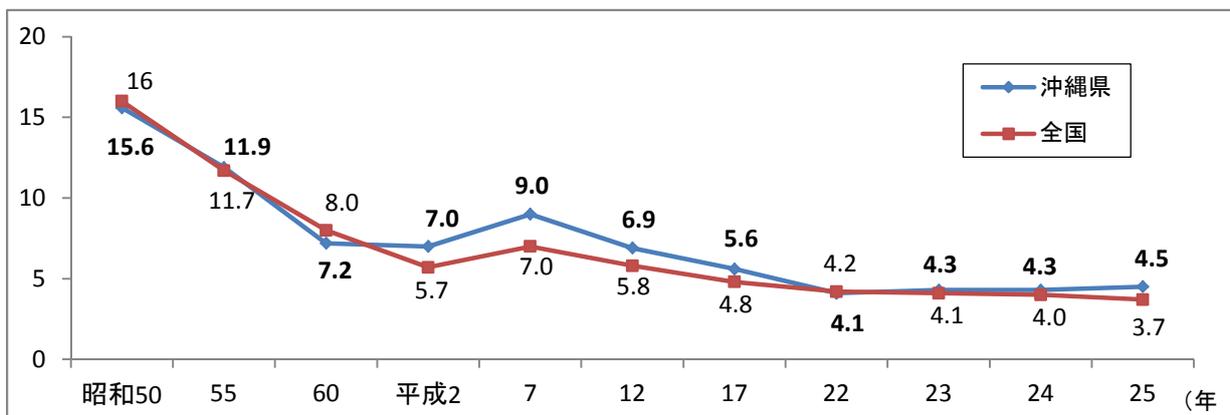


出典：人口動態統計

(5) 周産期死亡率の年次推移（出生千対）

周産期死亡率については、沖縄県、全国ともに年々改善傾向にあります。平成25年においては、沖縄県で4.5、全国で3.7となっており、昭和50年と比べると平成25年では、11.1ポイントも改善しております。

図15 周産期死亡率の年次推移（出生千対）



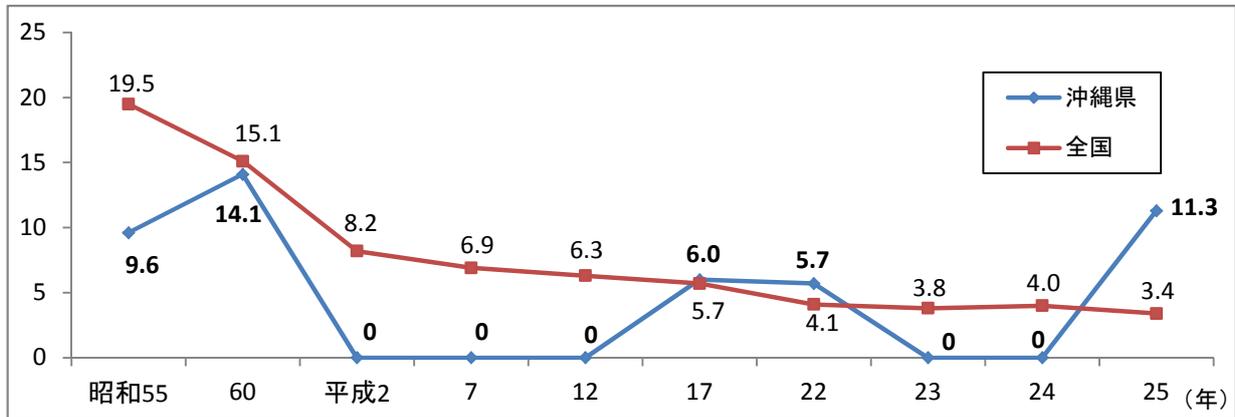
出典：人口動態統計

(6) 妊産婦死亡率の年次推移（出産10万対）

妊産婦死亡率については、全国は年々改善傾向にあります。沖縄県は年により数値に変化がみられます。

沖縄県では、平成2年、7年、12年、23年、24年については、妊産婦死亡は0人でしたが平成25年においては、2人の死亡があり、出産10万対の率としては11.3となっております。

図16 妊産婦死亡率の年次推移（出産10万対）



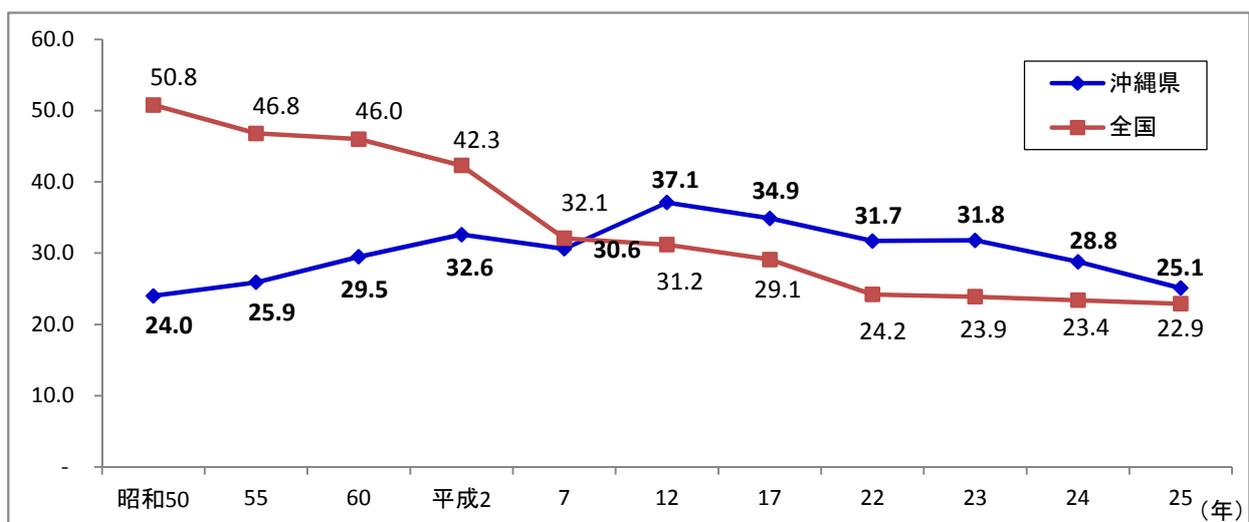
出典：人口動態統計

(7) 死産率の年次推移（出生千対）

死産率について、沖縄県は昭和50年から平成7年頃までは全国平均よりも低い状況でしたが平成7年ごろから全国平均を上回るようになりました。

年々その差は小さくなりつつありますが、平成25年においても沖縄県は25.1、全国は22.9と、全国よりも高い状況となっております。

図17 死産率の年次推移（出生千対）



出典：人口動態統計

(8) 沖縄県における妊娠届出の状況について

沖縄県における妊娠届出の状況については、年々満11週以内の早期届出が多くなってきており、平成25年には86.9%となっております。

また、妊娠届出状況を年齢で区分し、19歳以下の状況を見てみると、満11週以内の届出が65.1%と、全体11週以内の届出状況に比べ、21.8ポイントも下回っています。

さらに、保健所別の届出状況では、宮古・八重山地区の届出が、本島に比べ遅れる傾向がみられます。

図18 妊娠届出の年次推移

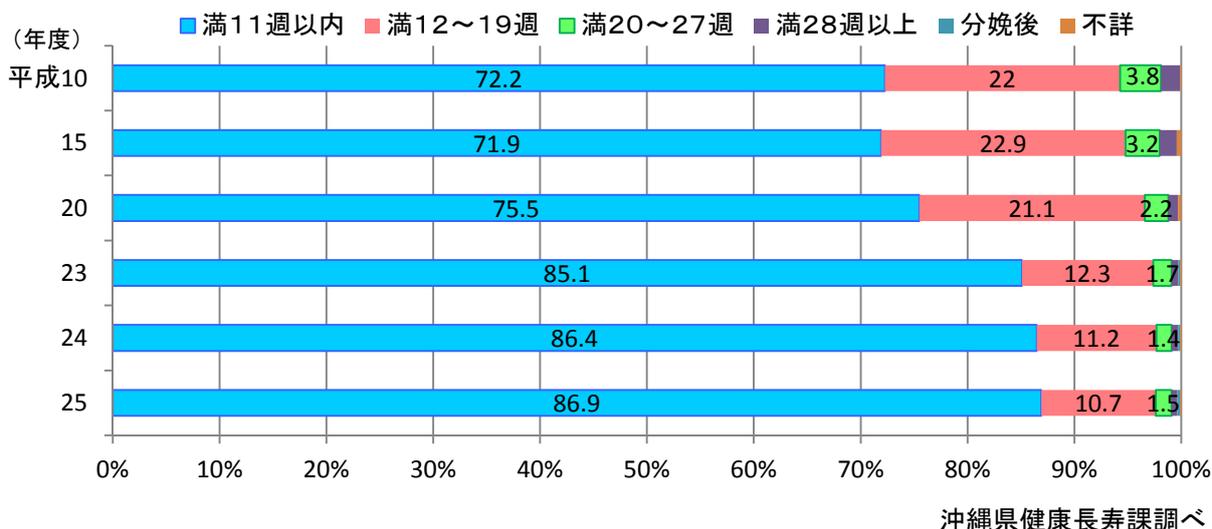


図19 19歳以下の妊娠届出の年次推移

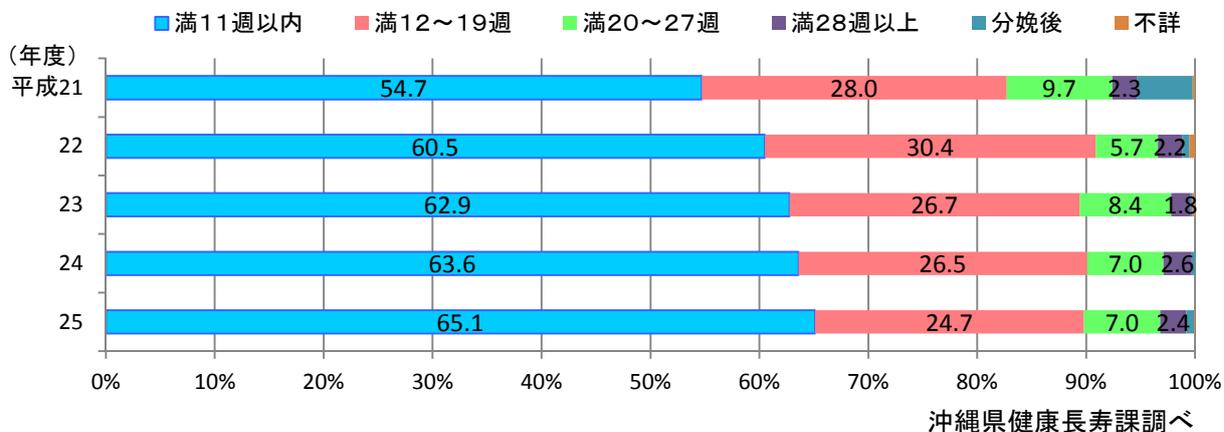
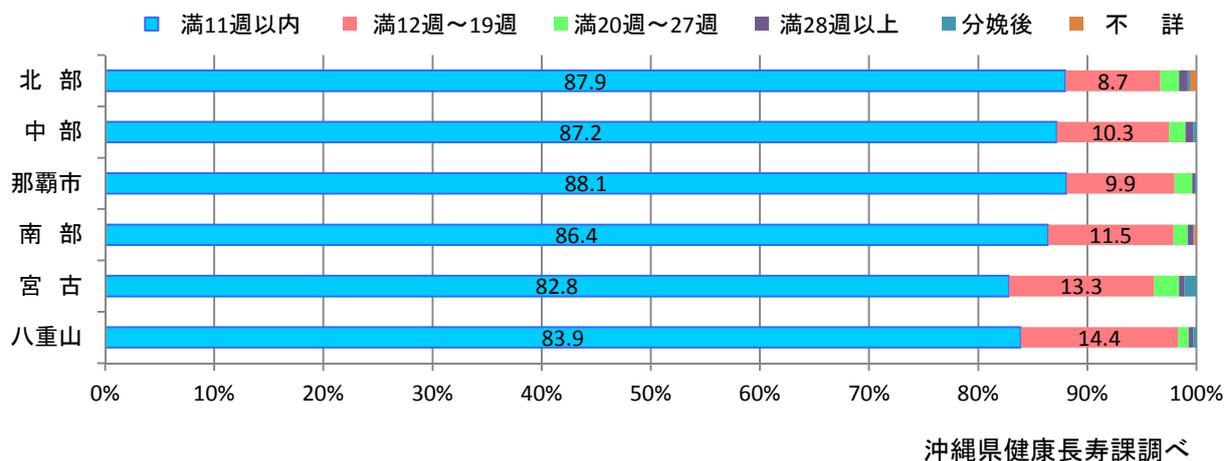


図20 保健所別妊娠届出状況(平成25年度)

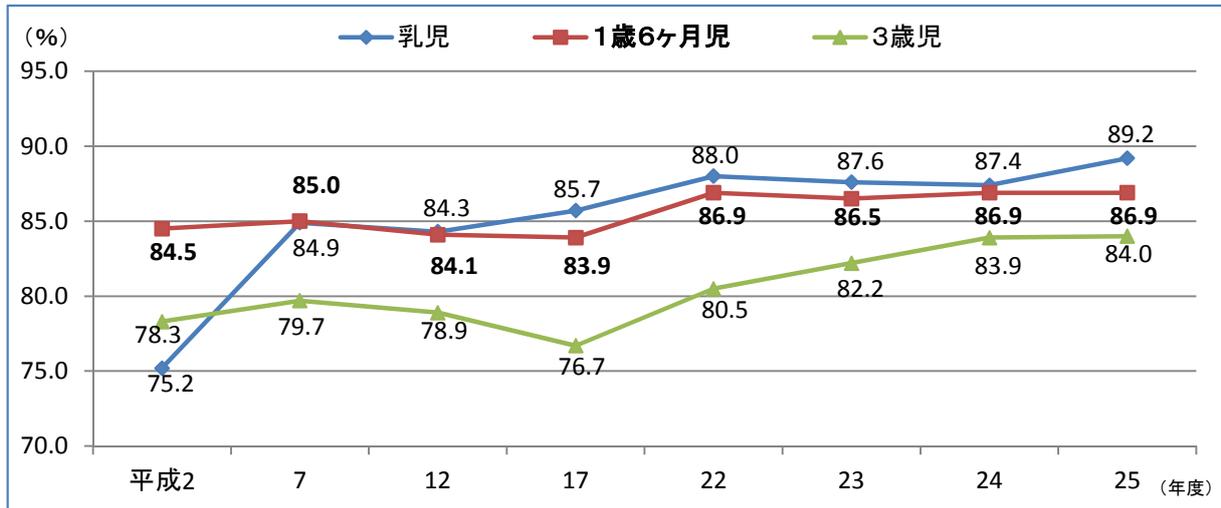


(9) 沖縄県における乳幼児健康診査の状況について

沖縄県における乳幼児健康診査の受診率について、平成25年度においては、乳児で89.2%、1歳6か月児で86.9%、3歳児で84.0%となっております。

各健康診査とも、年々改善傾向となっておりますが、全国平均に比べると依然として低い状況となっております。

図21 乳幼児健康診査の年次推移



出典：乳幼児健康診査報告書（※一部市町村については健康長寿課調べ）

表5 保健所別乳幼児健康診査受診率の比較（平成25年度）

保健所 種別	全国	県平均	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
乳児	95.3	89.2	88.7	85.1	90.1	92.4	89.7	95.7
1歳6か月児	94.9	86.9	86.3	83.9	83.8	90.9	93.8	94.3
3歳児	92.9	84.0	85.5	80.6	79.5	88.8	90.5	93.5

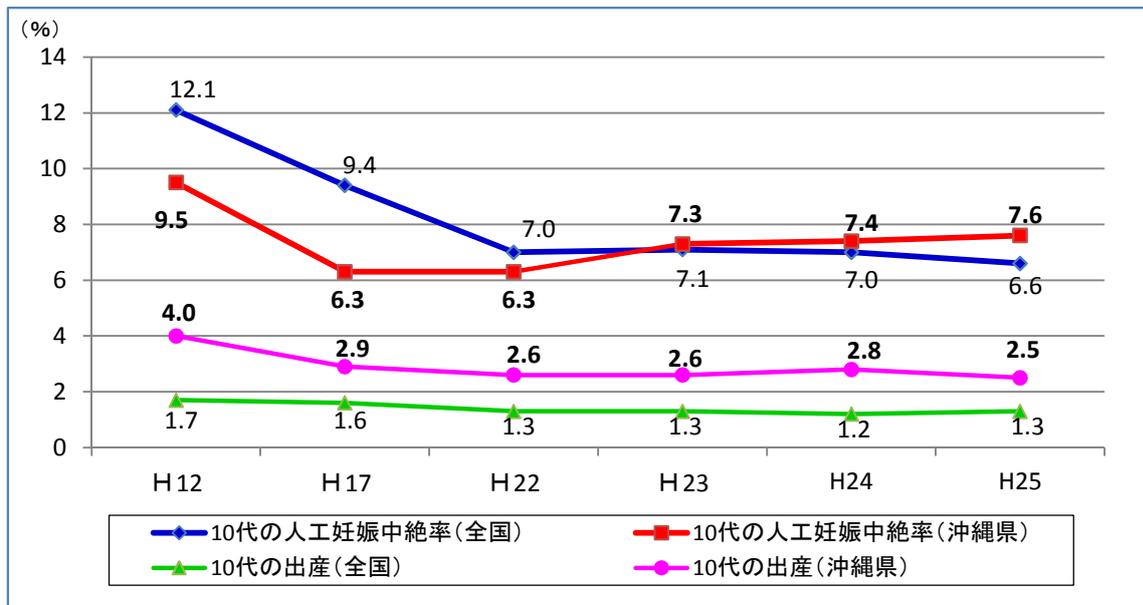
出典：沖縄県 平成25年度乳幼児健康診査報告書（※一部市町村については健康長寿課調べ）
 全国 平成25年度地域保健・健康増進事業報告（地域保健編）
 （※全国の乳児については、3～5か月児の受診率を記載）

(10) 沖縄県における10代の出産割合及び10代の人工妊娠中絶率について

母親の年齢における10代の出産割合は、年々減少傾向にあります。平成25年において、全国の1.3%に対し、沖縄県は2.5%と2倍近く高い状況にあります。

また、10代の人工妊娠中絶率においても、平成25年度全国平均の6.6%に対して、沖縄県は7.6%と、近年全国平均を上回る状況となっています。

図22 10代の出産割合及び10代の人工妊娠中絶率



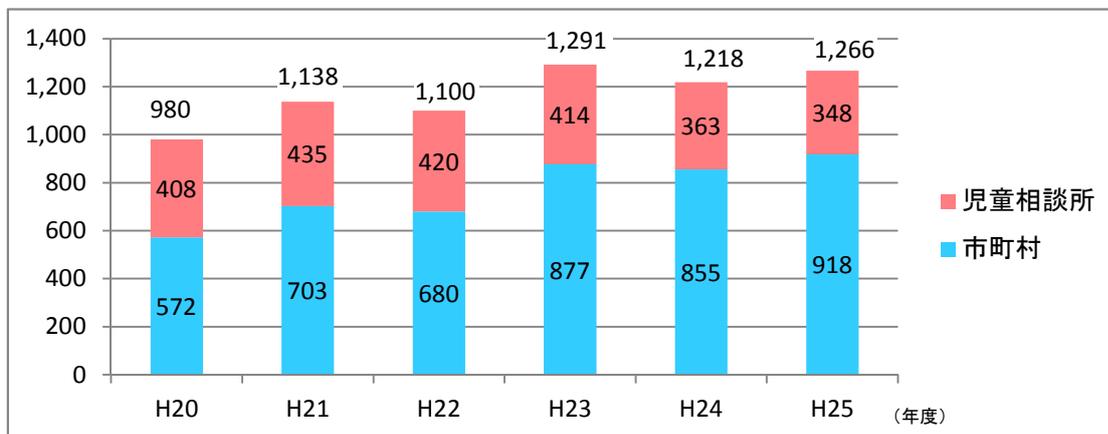
※10代の出産割合：暦年の数値 出典：人口動態統計

※10代の人工妊娠中絶率：年度の数値 出典：衛生行政報告例

(11) 沖縄県における児童虐待相談対応件数の年次推移

平成16年度に児童虐待防止法が改正され、市町村が通告先に追加されたことにより児童虐待相談対応件数は増加しました。平成23年度からは横ばい状態であるものの、平成25年度において、沖縄県内全体として1,266件の相談がある状況となっています。

図23 児童相談所及び市町村における児童虐待相談対応件数

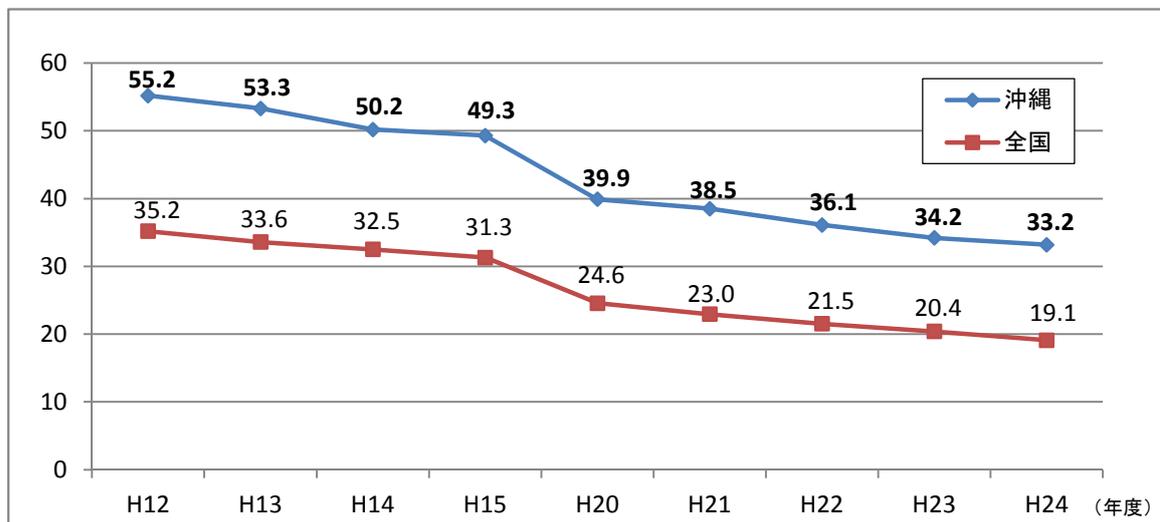


出典：沖縄県青少年・子ども家庭課資料

(12) 3歳児のむし歯有病率の年次推移

3歳児のむし歯有病率の推移をみると、沖縄県においては平成12年度の55.2%とから平成24年度に33.2%と22ポイントも大幅に改善しました。しかし、依然として全国との差は大きく、平成24年度においては、14.1ポイントの差がある状況です。

図24 3歳児のむし歯有病率の年次推移



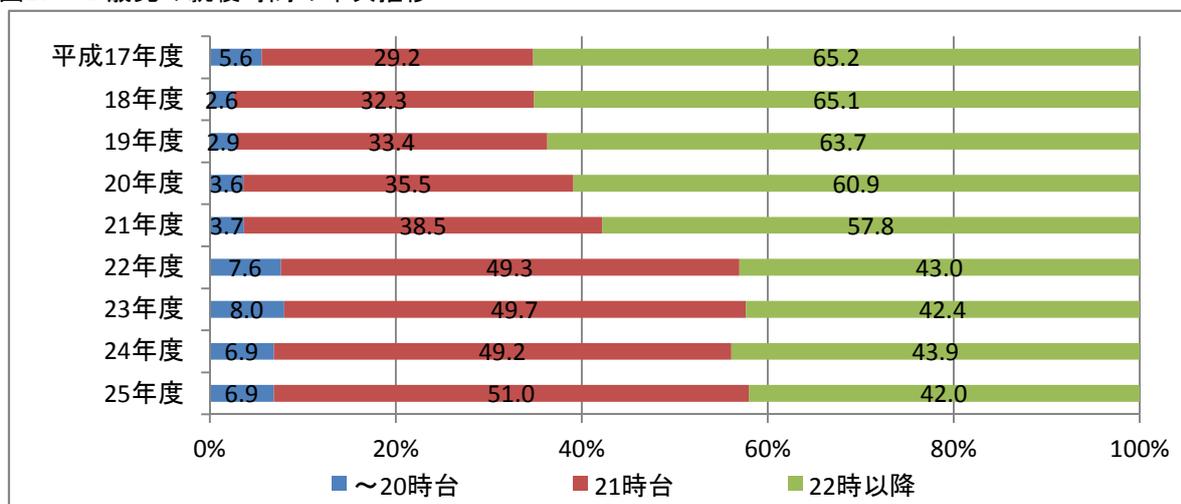
出典：厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課調査

(13) 沖縄県における3歳児の就寝時間の年次推移

沖縄県では、平成17年度において3歳児の65.2%は22時以降に就寝している状況がありましたが、平成25年度には42.0%となり、9年間で23.2ポイントも改善しました。

しかし、現在においても約4割の児が22時以降に就寝している状況があります。

図25 3歳児の就寝時間の年次推移

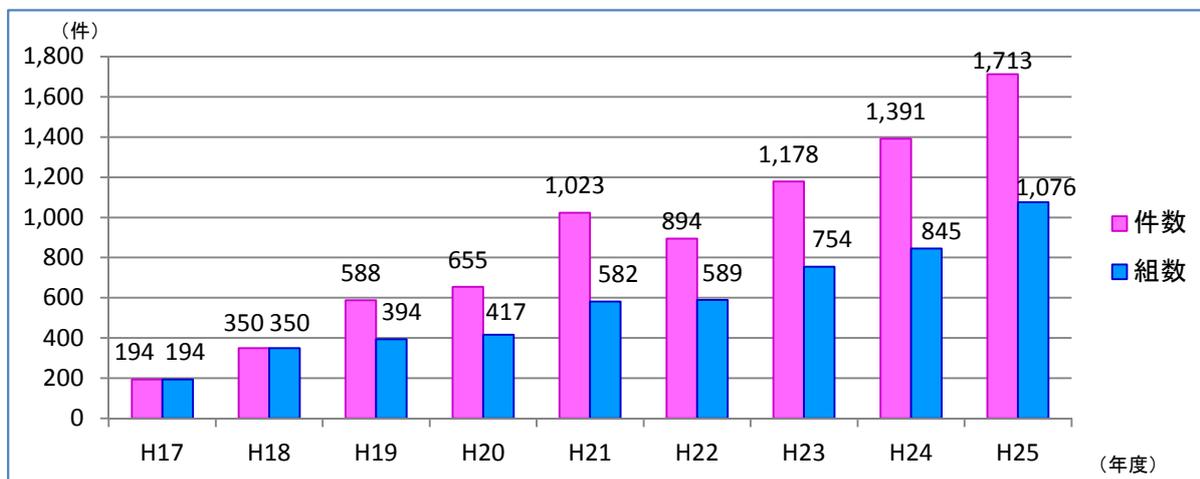


出典：乳幼児健康診査報告書

(14) 沖縄県特定不妊治療費助成事業実績の年次推移

沖縄県が平成17年度より実施している特定不妊治療費助成事業において、交付決定された延べ件数及び申請した夫婦の組数の推移を見てみると、年々増加傾向にあります。晩婚化・高齢出産の増加により、今後も更なる増加が見込まれます。

図26 特定不妊治療費助成事業実績の年次推移（那覇市を含む沖縄県の全数）



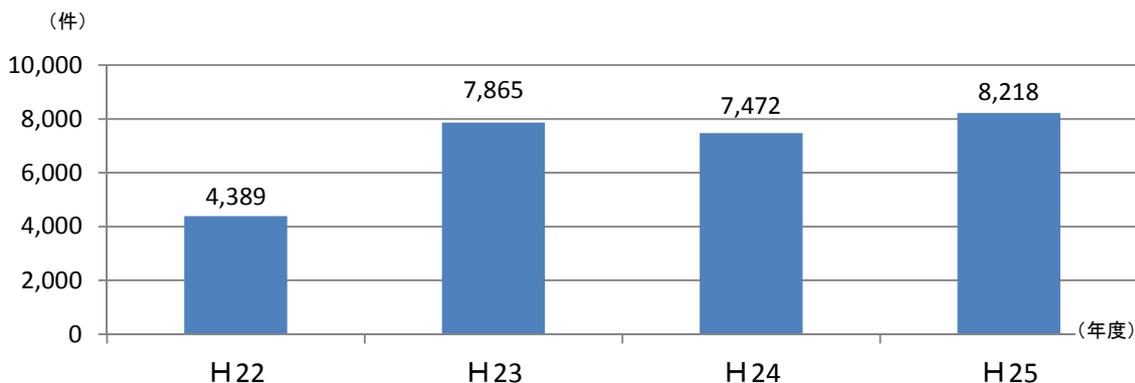
※組数について：特定不妊治療費助成事業は、年齢や申請年度数により年度内に1～3回まで申請することができ、組数はその年度に申請をした夫婦の実数となります。

出典：沖縄県健康長寿課資料

(15) 沖縄県における小児救急電話相談事業「#8000」の年次推移

沖縄県が平成22年7月から開始した夜間の小児救急電話相談事業「#8000」では、平成25年度において8,218件の相談がありました。

図27 小児救急電話相談事業「#8000」の年次推移

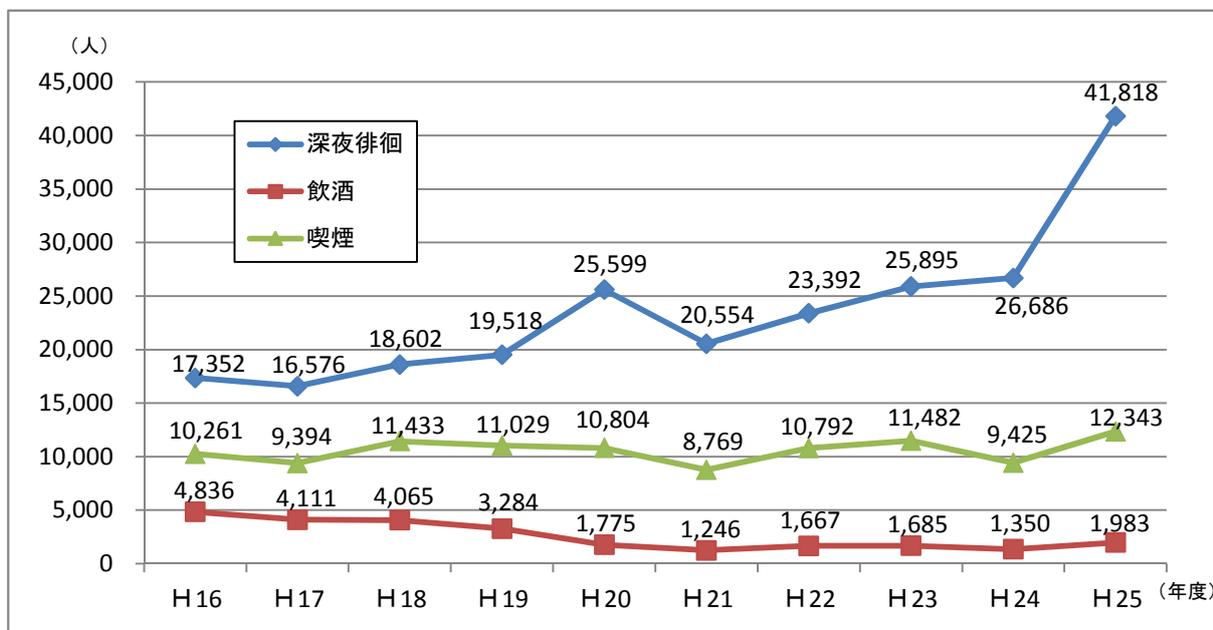


出典：沖縄県保健医療政策課資料

(16) 沖縄県における深夜徘徊・飲酒・喫煙で補導された少年の年次推移

平成16年から平成25年までの不良行為で補導された少年のうち、飲酒による補導人数は減少傾向にあり、喫煙による補導人数は横ばいとなっています。一方で、深夜徘徊の補導人数は増加傾向にあり、平成16年の17,352人から平成25年には41,818人と大幅増となっています。

図28 深夜徘徊・飲酒・喫煙で補導された少年の年次推移



出典：平成25年少年非行等の概況